Link Archi Scape

建築ツーリズムをつなぐ

2026.11.21 Sat. — 11.23 Mon. / 12.12 Sat.

11.21 Sat. — 11.23 Mon.

Ginza Sony Park

全国の建築祭を紹介するインスタレーション

12.12 Sat.

自由学園明日館

建築のクリエイティブな継承を考えるトークイベント





Photo: Miyo Ogawa

Ginza Sony Park 〒104-0061 東京都中央区銀座5-3-1
○JR「有楽町駅」中央口より徒歩5分
○東京メトロ銀座線「銀座駅」銀座四丁目交差点改札より徒歩3分
○東京メトロ丸ノ内線・日比谷線「銀座駅」
数寄屋橋交差点改札または中央改札より徒歩2分
*地下コンコースB9出口直結（利用時間 8:00-22:00）

自由学園明日館 〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-31-3
○JR山手線・埼京線・湘南新宿ライン「池袋駅」
メトロポリタン口より徒歩5分
○東京メトロ丸ノ内線・有楽町線・副都心線「池袋駅」3番出口より徒歩5分
○東武東上線「池袋駅」南改札口より徒歩5分
○西武池袋線「池袋駅」西武南口より徒歩8分

主催：文化庁　協力：自由学園明日館　企画・制作：株式会社KYO-ZON

Link Archi Scape

文化庁 Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

More Information

入場無料　※トークイベントは要事前登録

文化庁による建築祭イベント、今年は都内で開催！
全国各地の建築祭の魅力と意義を伝え、つながりを拡げる新しい試み

文化庁 Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

プレス問い合わせ先：LinkArchiScape PR担当 中村葵 (aoi.nakamura@kyotographie.jp)

LinkArchiScape 2026
建築ツーリズムをつなぐ

文化庁はこのたび、東京の「Ginza Sony Park」と「自由学園明日館」の2会場にて、
「LinkArchiScape 2026—建築ツーリズムをつなぐ」を開催いたします。
「Ginza Sony Park」では2026年11月21日（土）から11月23日（月・祝）まで全国の建築祭を
紹介する展覧会を、「自由学園明日館」では12月12日（土）にトークイベントを開催します。

近年、近現代建築や歴史的建築を期間限定で公開する「建築祭」が全国各地で開催され、
地域の文化資源に光を当てる新たなムーブメントとして注目を集めています。

本イベントでは、全国の建築祭を紹介する展覧会や
建築の保存・活用について考えるトークイベントを通じて、
建築祭の魅力と意義を広く発信するとともに、
建築祭を通して生まれた建築への関心を
各地の建築と地域・文化をめぐるツーリズムへとつなげます。
そして、建築を「生きた建築」として使い続ける文化が定着するよう、
世代を超えて受け継ぐための新たなあり方を探ります。

基本情報

タイトル：LinkArchiScape 2026—建築ツーリズムをつなぐ
会期：2026年11月21日（土）—11月23日（月・祝）、12月12日（土）
会場：Ginza Sony Park、自由学園明日館
主催：文化庁
協力：自由学園明日館
企画・制作：株式会社KYO-ZON



Ginza Sony Park（左）／自由学園明日館（右）　写真：小川美陽

全体の問い合わせ

文化庁「全国各地の魅力的な文化財活用推進事業」事務局
Tel：03-6821-8146（対応時間：平日10:00-18:00）
E-Mail：infolas2026@zenkoku-katsuyo.jp
※本事業は、株式会社ADKマーケティング・ソリューションズに応募受付等の業務を委託しております。

Learn More

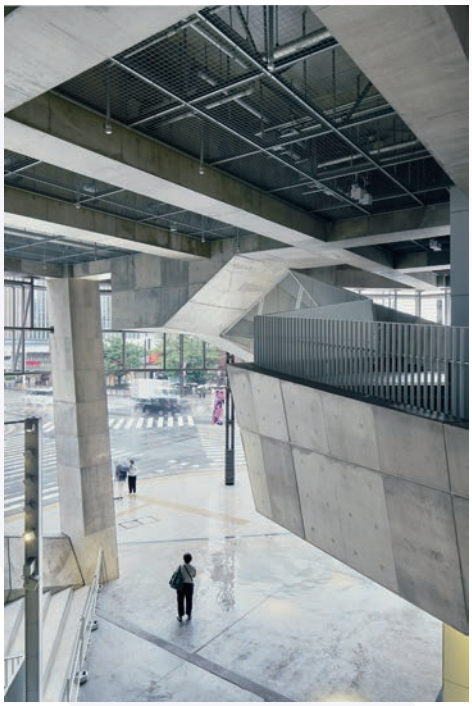
建築祭展　Archi Festival Exhibition

11.21 Sat.—11.23 Mon.
Ginza Sony Park B1F

時間：11:00–19:00（最終日は17:00まで）
入場料：無料

本展は、全国で開催されている建築祭を紹介するとともに、なかでも津山、大阪、名古屋、東京の4つの建築祭（津山建築祭、生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪、なごや建築まつり、東京建築祭）に焦点を当てます。会場となるGinza Sony Parkは、人々の回遊や多様な活動を受け入れる「都会の中の公園」です。この開かれた公園建築を会場に、各地域の建築を捉えた写真をプログラミングによって構成した映像で展示します。また映像とあわせて、それぞれの建築の特徴、その建築がどのような土地や環境のなかにあり、まちや地域とどのように関わっているのかを紹介します。





写真：小川美陽

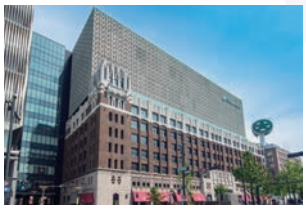
本展で紹介する建築物（各建築祭より抜粋）



津山建築祭
津山文化センター（提供：津山文化センター）



津山建築祭
中山神社拝殿・幣殿



生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪
大丸心斎橋店本館（提供：大丸心斎橋店）



生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪
芝川ビル



なごや建築まつり
タマディック名古屋ビル（撮影：平井広行）



なごや建築まつり
名古屋市美術館



東京建築祭
カナダ大使館



東京建築祭
慶應義塾図書館旧館（提供：慶應義塾広報室）

Ginza Sony Parkについて

2025年1月にオープンしたGinza Sony Parkは、銀座・数寄屋橋交差点に面し、まちの中に「余白」と「リズム」を生み出す「都会の中の公園」として建設されました。銀座の高さ制限の約半分に抑えた建物は、地上から地下まで連続する「縦のプロムナード」でつながり、まちに開き、まちと建物をシームレスに行き来できる構成となっています。
今回の展示会場である地下1階のイベントスペース部分は、約245㎡の広さを持つ半屋外で、地下鉄コンコースともつながる開放的な空間です。通路に沿って残る、ソニービルから受け継がれたエスカレーター空間と、青いタイルの壁が特徴です。新しい建築の中に過去の記憶を残しながら、まちの動線と展示、滞在を自然につなぐ空間です。

〒104-0061 東京都中央区銀座5-3-1
○JR「有楽町駅」中央口より徒歩5分　○東京メトロ銀座線「銀座駅」銀座四丁目交差点改札より徒歩3分
○東京メトロ丸ノ内線・日比谷線「銀座駅」数寄屋橋交差点改札または中央改札より徒歩2分　*地下コンコースB9出口直結（利用時間 8:00–22:00）



写真：小川美陽

トークイベント　Talk Event

お申し込みはこちら▶

12.12 Sat.
自由学園明日館 講堂

時間：14:30-17:45　参加費：無料
定員：200名（事前申込・定員制）　座席：自由
申込締切：11月30日（月）17:00まで（応募者多数の場合は抽選）
申込先：右上の2次元コードからお申し込みください

建築が持つ価値や地域との関係を大切にしながら、時代に応じてその使い方やあり方を見直し、新たな価値を生み出していくこと。それは「建築のクリエイティブな継承」と呼べるかもしれません。
本トークイベントでは、自由学園明日館、旧横浜市庁舎、旧上野市庁舎といった、歴史ある建築の継承に取り組んできた実践者を迎えます。
建物のどのような価値がどのように受け継がれたのか、その過程ではどのような格闘があったのか。そして、そうして継承された建物の存在は、訪れる人やまちの人たちにとってどのような意味をもたらしているのか――。
所有者として建築を積極的に活用していく事例や、建築を改修した事例を通して、建築の魅力をどのように新たな価値の創造につなげていくのかを、会場の皆さんと一緒に考えます。





写真：小川美陽

Talk Event

第1部　**建築を「継承する」ということ―所有者の立場から**



福田 竜
自由学園明日館 館長

第2部　**建築を「継承する」ということ―事業者の立場から**

旧横浜市庁舎（BASEGATE横浜関内―OMO7横浜 by 星野リゾート）



前田祐哉
株式会社竹中工務店 東京本店設計部 チーフアーキテクト



羽毛田 実
OMO7横浜 by 星野リゾート 総支配人

旧上野市庁舎（旧上野市庁舎SAKAKURA BASE―泊船）




高野洋平、森田祥子
MARU。architecture 共同主宰



船谷哲司
船谷ホールディングスグループ 代表

第3部　ディスカッション　**建築のクリエイティブな継承**

登壇者：**第1部・第2部 登壇者**

自由学園明日館について

自由学園明日館は、羽仁もと子・吉一夫妻が創立した自由学園の最初の校舎として1921年に建設され、1997年に国の重要文化財に指定されました。帝国ホテルの設計のため来日していたフランク・ロイド・ライトが夫妻の教育理念に共鳴し、「簡素な外形のなかにすぐれた思いを充たしめたい」という願いを基調に設計しました。ライトを夫妻に紹介したのは、帝国ホテルでライトの助手を勤めていた遠藤新です。
建物は、中央棟を中心に東西の教室棟を左右対称に配置し、高さを抑えて水平線を強調したプレーリースタイル（草原様式）が特徴です。ホールの大きな窓をはじめ、幾何学的な意匠が建物や家具の随所に取り入れられています。老朽化によって一時は取り壊しも検討されましたが、重要文化財への指定を経て保存修理が行われました。現在は「使いながら保存する」動態保存のモデルとして、見学やイベントなど、多様な用途に活用されています。



写真：小川美陽

〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-31-3
○JR山手線・埼京線・湘南新宿ライン「池袋駅」メトロポリタン口より徒歩5分
○東京メトロ丸ノ内線・有楽町線・副都心線「池袋駅」3番出口より徒歩5分
○東武東上線「池袋駅」南改札口より徒歩5分　○西武池袋線「池袋駅」西武南口より徒歩8分